

# 日本消防



●第20回全国女性消防団員活性化ちば大会開催

1  
2015

□ 絵 第20回全国女性消防団員活性化ちば大会  
 平成26年11月14日(金) 於 千葉県浦安市 舞浜アンフィシアター  
 平成27年 消防出初式

新春のご挨拶 .....	(公財) 日本消防協会 会長 秋本 敏文 .....	1
年頭の辞 .....	消防庁長官 坂本 森男 .....	2
年頭にあたり .....	全国消防長会 会長 大江 秀敏 .....	3
第20回全国女性消防団員活性化ちば大会開催 .....	(公財) 日本消防協会 .....	4
第30回日中消防協会定期協議会 .....	(公財) 日本消防協会 .....	13
災害活動報告 「長野県神城断層地震」 .....	長野県消防協会 会長 吉竹 行仁 .....	14
災害活動報告 広島県安芸太田町における雪害への対応 .....	広島県安芸太田町消防団 団長 丸山正隆 .....	16
第24回全国消防操法大会ポンプ車の部に優勝して .....	長崎県杵岐市消防団 .....	18
第24回全国消防操法大会小型ポンプの部に優勝して .....	岡山県岡山市消防団 .....	20
第24回全国消防操法大会優秀選手紹介 .....	(公財) 日本消防協会 .....	22
平成26年秋の褒章(消防関係) .....	総務省 消防庁 .....	25
東西南北(長崎県) 「いかなる災害にも対応できる消防団を目指して」 .....	南島原市消防団 団長 大山秀孝 .....	28
東西南北(岩手県) 「志操堅固」 .....	野田村消防団 団長 式又文雄 .....	30
東西南北(大分県) 「消防団の装備充実を目指して」 .....	中津市消防団 団長 陽田義明 .....	32
シンフォニー(和歌山県) 「活動を通して今後を考える」 .....	田辺市消防団 女性分団 分団長 津田康代 .....	34
消防団の現況(平成26年10月1日現在) .....	(公財) 日本消防協会 .....	36
第28回中国消防視察について .....	(公財) 日本消防協会 .....	38
第61回文化財防火デー .....	消防庁 予防課 .....	41
消防団への入団促進 .....	消防庁 地域防災室 .....	42
消防団員である専修大生が応急救護訓練を実施 .....	東京消防庁 神田消防署 .....	43
うちの名物団員 .....	.....	44
消防団の広場(福井県) 「消防操法大会から生まれるもの」 .....	勝山市消防団 第4分団 団員 中村啓一 .....	46

編集後記

### 表紙写真説明

#### 世界新三大夜景【長崎】

2012年10月5日に長崎ブリックホールで開催された「夜景サミット2012 in 長崎」において、香港、モナコ、長崎の3都市が世界を代表する夜景都市「世界新三大夜景」都市として認定されました。

「宝石箱をひっくりかえしたよう」という表現そのままに、眼下に広がる1,000万ドルの夜景は正に絶景です。  
 (長崎県長崎市)



**第20回**  
**全国女性消防団員活性化**  
**ちば大会**

女性の力で地域を守る  
 ～ ちば から全国へ 地域防災の輪を広げよう ～

**平成 26 年 11 月 14 日 (金)**









主催：消防庁・公益財団法人日本消防協会・公益財団法人千葉県消防協会  
 第20回全国女性消防団員活性化ちば大会実行委員会  
 共催：千葉県・浦安市  
 後援：千葉県市長会・千葉県町村会・千葉県消防長会



# 平成 27 年 消防出初式



1月3日(土) むつ市消防団六畑消防団出初式



1月4日(日) 周南市消防出初式



1月4日(日) 神崎市消防団出初式



1月4日(日) 鈴鹿市消防出初式



1月6日(火) 東京消防出初式



# 新春のご挨拶

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文



輝かしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、今年が皆さまにとってよい年であり、各地域が無事平穏でありますよう心からお祈り申し上げます。また、地域の安全確保にご尽力を頂いている消防団員、職員の皆さまに深く敬意を表します。

東日本大震災後の我が国の消防防災体制のあり方について、当協会として新法制定を提言しましたが、一昨年末、「消防団を中核とした地域防災力の強化に関する法律」という新たな法律が成立しました。これは、消防団の重要性を明らかにするとともに、地域においては消防団が中心になりながら、常備消防との連携のもと、地域の皆さんの総力を結集して地域防災力の充実強化を進めるという、これまでにない画期的な法律であります。そこで、広く国民の皆さまに、地域防災力の強化が大事だということをご理解いただくため、当協会主催により、昨年8月29日、東京都有楽町の東京国際フォーラムにおいて、「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」という初めての国民的大会を開催しました。この大会には、消防関係者だけでなく、経済、教育、医療、福祉など各界の方々に広くご参加頂き、さらに安倍内閣総理大臣をはじめとするご来賓の方々にもご出席頂き、全国各地の活動事例発表など充実した内容により盛大に執り行うことができました。

一方、東日本大震災後も、各地でこれまでの経験にない局地的な集中豪雨、竜巻、大雪などの災害があり、さらに近い将来の大規模な地震の発生も懸念されています。どのような災害があっても、東日本大震災の時のような体験を繰り返すことのないよう、新法の趣旨に沿ってより強固な消防防災体制づくりを進めなければなりません。

平成27年度は、新法施行後の実質初年度でもあります。地域防災の中核である消防団については、団員の確保、装備の改善等による充実強化を図り、そうして地域の総力を結集する防災体制強化のスタートを切ることができるよう、消防関係者が連携し、国の財政措置、各市町村の予算措置など必要な施策の実現に総力を挙げなければなりません。

また、少年消防クラブや女性防火クラブ、地域の自主防災組織の活動支援なども地域の防災基盤を強化する重要な課題として、引き続き努力します。

さまざまなお苦心ご苦労がおありと思いますが、消防団員、職員の皆さまの益々のご健勝ご多幸をお祈り申し上げて新年のご挨拶といたします。

# 年 頭 の 辞

消防庁長官 坂本 森男



平成27年の新春を迎えるに当たり、常日頃から地域の安心・安全を守るため、昼夜を分かたず消防防災活動にご尽力いただいております全国の消防関係者の皆様に、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、大規模な自然災害により、大きな被害が生じました。

夏には、台風や前線の影響により全国各地で大雨被害が発生し、中でも8月に広島市で発生した土砂災害では74名の方が犠牲となり、救助活動中の消防職員が再度発生した土石流に巻き込まれて殉職するという痛ましい出来事もございました。

また、60名を超える死者・行方不明者が発生した9月の御嶽山の噴火災害においては、高地で酸素が薄く、火山性ガスが発生し、さらに足下に大量の火山灰が降り積もっているという過酷な環境の下で、多くの消防職員が懸命の捜索活動に当たりました。

さらに、幸い死者が発生することはありませんでしたが、11月には、多くの家屋倒壊を伴う地震が長野県北部を震源として発生したところであり、今後、首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模地震の発生も危惧されています。

ひとたび災害が発生すれば、先陣を切って災害現場に駆けつけ、果敢に活動する消防に、国民は大きな信頼と期待を寄せています。このような国民の信頼と期待に応えられるよう、消防庁においても、緊急消防援助隊や常備消防力の充実強化、消防団を中核とした地域の防災力の充実強化、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会等に向けた大都市等の安全・安心対策、火災予防対策、被災地における消防防災体制の充実強化などを柱とした施策に取り組んでいるところです。

また、高齢者施設や有床診療所における火災が相次いだことを受け、消防法施行令の一部を改正し、スプリンクラー設備の設置基準の見直し等を行いました。改正後の基準は、本年4月以降、順次施行されるため、施行に向けた取組を進める必要があります。

我が国の消防は、先人のたゆまぬ努力の積み重ねにより、着実に進展し、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしてきました。皆様方におかれましても、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援助とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 年頭にあたり

全国消防長会 会長 大江 秀敏



平成27年の輝かしい新春を迎え、全国の消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

消防団員の皆様方におかれましては、各種災害から住民の生命、身体及び財産を守るため、平素から仕事の傍ら訓練に励まれ、常時の災害対応はもちろん、震災等大規模災害発生時における関係機関との連携活動に従事されるなど、地域社会の安全の確保と防災力の向上へ昼夜を分かたず多大なるご尽力を賜っていることに対し、ここに改めて、深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、昨年の国内における災害状況を顧みますと、自然災害が全国各地で猛威を振り、広島市では、記録的豪雨による土砂災害が発生し、消防職員を含む多くの尊い人命と貴重な財産が失われるなど、甚大な被害が生じ、御嶽山の噴火では、噴石により多数の死者が発生し、戦後最大の火山災害となりました。

また、非鉄金属工場やマグネシウム合金を扱う作業所において爆発火災が発生するなど、地域住民の安全を脅かす災害は後を絶ちません。

こうした様々な災害が発生している状況に加え、南海トラフ巨大地震や首都直下地震の発生による被害も危惧されている中、一昨年には「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が制定されるなど、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神からなる地元根差し密着した消防団の重要性は一層増すとともに、その活躍が大いに期待されているところであります。

全国消防長会といたしましても、地域の総合的な防災力の強化を中心とした震災等大規模災害対策をはじめ、緊急消防援助隊の効果的運用による消防広域応援体制の充実・強化、さらには、災害現場などで発生した受傷事故に対する反省を踏まえた安全管理対策などを積極的に推進してまいり所存であります。

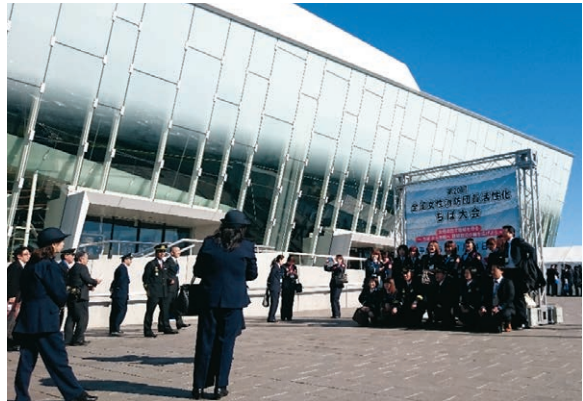
今後も、地域住民が安心して安全に暮らせる社会の実現のため、最大のパートナーである消防団の皆様方をはじめとする関係団体との連携をより緊密にしながら諸施策を展開してまいりますので、地域防災力の中核として引き続きご尽力いただくとともに、全国消防長会に対するご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方が消防防災力の更なる向上のため、地域のリーダーとしてますますご活躍されますとともに、ご健勝、ご多幸、そして何より、本年が災害のない平穏で幸多き一年でありますことを心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 第20回全国女性消防団員活性化ちば大会開催

(公財)日本消防協会

平成26年11月14日（金）、第20回全国女性消防団員活性化ちば大会が千葉県浦安市の舞浜アンフィシアター（第1会場）と浦安市総合体育館（第2会場）において盛大に開催され、全国から史上最大規模となる約3,800名もの女性消防団員等関係者の方々が参加されました。



今大会は「女性の力で地域を守る～ちばから全国へ地域防災の輪を広げよう～」をテーマに、全国女性消防団員が一堂に会し、日頃の消防団活動や取り組みについての発表や地域を超えた情報交換が行われ、活気ある大会となりました。

大会要項	大会スケジュール
1 大会名称 第20回全国女性消防団員活性化ちば大会	◎大会「舞浜アンフィシアター」（第1会場）
2 開催日 平成26年11月14日（金）～15日（土）	「浦安市総合体育館」（第2会場）
3 会場 大会「舞浜アンフィシアター」（第1会場） 「浦安市総合体育館」（第2会場）	9：40 オープニングセレモニー
4 主催 消防庁 公益財団法人日本消防協会 公益財団法人千葉県消防協会 第20回全国女性消防団員活性化ちば大会実行委員会	10：00 開会式
5 共催 千葉県 浦安市	10：40 サプライズゲスト
6 後援 千葉県市長会 千葉県町村会 千葉県消防長会	10：45 活動事例発表（4団体）
	11：35 アトラクション、昼食・休憩
	12：40 火災予防啓発劇（4団体）
	14：00 記念公演「女優・声優 市原悦子さん」
	15：00 プレゼント当選者発表
	15：10 閉会式
	15：30 閉会
	◎情報交流会「東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾート」
	17：00～18：30



## 開会式



松戸市消防音楽隊によるコンサート



会場の特徴を活かした演出の大会旗入場



開会宣言 松戸市消防団 丹羽和子さん



主催者挨拶 消防庁 坂本森男長官



高市早苗総務大臣から、「災害が多発している昨今、地域防災力の強化は喫緊の課題であり、その中核をなすのが消防団です。女性消防団員の皆様には、災害時における消火活動や後方支援活動、平常時においても応急手当の普及や防災教育等、多岐に渡ってご活躍いただいております。輝く女性のリーダーとして、益々これからも頑張ってくださいと嬉しいです」と、感謝と激励のビデオメッセージが届けられました。



主催者挨拶 日本消防協会 秋本敏文会長



主催者挨拶 千葉県消防協会 石橋毅会長



来賓祝辞 千葉県 森田健作知事



開催地市長挨拶 浦安市 松崎秀樹市長

## 活動事例発表

全国から選ばれた4団体が日頃取り組んでいる活動を発表しました。



南丹市消防団(京都府) 西村智子さん  
「ケーブルテレビを活用した予防啓発活動」



多気町消防団(三重県) 岡井一代さん  
「何のため? から町民のため!へ」



美咲町消防団(岡山県) 芦木菜穂子さん  
「さくら隊〜地域のために役立つ力〜」



八千代市消防団(千葉県) 鎌田和代さん、鈴木京子さん  
「育てよう 未来につながる女性消防団活動」

## アトラクション



上仁會「佐原囃子」



下総乃国銚子はね太鼓保存会「銚子はね太鼓」



木更津證誠寺のためきばやし保存会「証誠寺の狸囃子」



浦安お洒落保存会「おしゃらく」

## 火災予防啓発劇

全国から選ばれた4団体が発表し、わかりやすく、ユーモアを交えた内容で住民の皆さんの防災意識を高められる寸劇や体操に会場の皆さんも楽しんでいました。



宮崎市消防団(宮崎県)「絆 この街を守り隊」  
防災訓練に参加した防災意識の高い家族と、防災訓練に参加しない家族。それぞれイザという時にどのような状況になるかを演じた啓発劇でした。





富山市消防団（富山県）「水戸黄門越中編『ある茶店での出来事』」  
水戸黄門を題材に、住宅用火災警報器の設置と救命講習の受講に興味を持ってもらえるような啓発劇でした。



横浜市泉消防団（神奈川県）「自助・共助で減災体操『JKG体操』」  
放水姿勢などを取り入れ、大地震に対する備えや地震後の行動など、自助・共助の意識を高めるような体操を発表しました。



松伏町消防団（埼玉県）「るすばん小学生危機一髪』『心臓くんのキモチ』」  
実際に経験した竜巻をヒントに、留守番中の小学生が災害をどう切り抜けるのか、また、突然心臓が止まった父にどう対処するのかを演じた啓発劇でした。



## 記念講演

テレビ、映画等で女優・声優としてご活躍している市原悦子さんに「朗読とお話の世界」と題し、記念講演を行っていただきました。

日頃、地域で子どもや高齢者への防火防災指導を担うことの多い女性消防団員の皆さんにとって、相手の心に響く市原さんの優しい朗読は大変な感銘を受けるものでした。



## 閉会式



大会宣言 浦安市消防団 賀川正子さん



お礼の言葉 千葉市消防団 中村妙子さん



大会旗引き継ぎ



次期開催地代表挨拶 佐賀県消防協会 原田守会長





閉会宣言 船橋市消防団 山城裕美さん



司会 松戸市消防団 神長純子さん

## 第1会場の様子



第1会場 舞浜アンフィシアター



チーバくんも歓迎



おみやげには千葉県名産品を



全国各地の女性消防団活動紹介コーナー



運営には千葉県内の多くの消防団員、消防職員のご協力をいただきました。



佐賀県は来年度の開催をPR

## 第2会場（浦安市立総合体育館）



## 情報交流会（東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾート）



鏡開き



乾杯



まっちゃんさん（浦安市在住）によるものまねショー



千葉県内ご当地キャラクター PR



約2,000人の参加者が交流を深めました



司会 千葉市消防団 中村明美さん（左）  
船橋市消防団 柴 千里さん

### 次回開催

第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会

会期 平成27年10月29日（木）・30日（金）

会場 佐賀市文化会館



# 第30回日中消防協会定期協議会

(公財)日本消防協会



平成26年11月18日（火）中国北京市の和平賓館において、日本消防協会から秋本会長以下10名、中国消防協会から陳会長以下8名が出席し、第30回日中消防協会定期協議会が開催されました。

はじめに、陳会長から日本消防協会代表団の訪中の歓迎と日本消防協会からの支援・協力に対するお礼のあいさつがありました。そして、今後も引き続き両国が友好的な協力関係を築いていくことが両国消防の発展に繋がる旨を述べられました。

日本消防協会からは、秋本会長から、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」を制定し、一般の人々も参加する地域の総合的な防災体制の強化を進めていること、日中両国消防の交流を継続し、両国消防の発展、さらには、アジア、世界の消防の発展に貢献していく旨を述べました。

定期協議会は、開催国である中国消防協会の陳会長を議長に行われ、提出議題全てが両国にて合意されました。協議結果は以下のとおりです。

- 1 第31回日中消防協会定期協議会について  
2015年度における第31回日中消防協会定期協議会の開催場所は東京とする。具体的な内容は今後両国で協議し決定する。
- 2 第29回日中消防友好調査について  
2015年度も日中消防友好調査を行う。具体的な内容は今後両国で協議し決定する。
- 3 中国消防研修生について  
2015年も例年同様に研修生を受け入れる。具体的な内容は今後両国で協議する。
- 4 情報交換  
（日本側）新法及び「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」の開催について  
（中国側）平成27年10月開催予定の消防科学技術展示会など中国消防協会の主要事業について



## 「長野県神城断層地震」

長野県消防協会 会長 吉竹 行仁



### 1 被害状況

平成26年の長野県は、大きな災害に見舞われた1年でした。2月には記録的な大雪、7月には南木曾町の土石流災害、9月の御嶽山噴火は57名が犠牲となる戦後最悪の火山災害となってしまいました。消防をはじめ県下の防災機関は、度重なる災害対策に追われる中、今度は大きな地震に襲われました。

11月22日（土）22時08分に発生した長野県北部を震源とする地震は、マグニチュード6.7、震源の深さが5kmと浅かったことから、長野市、小谷村、小川村で震度6弱、信濃町、白馬村で震度5強という強烈な揺れをもたらしました。この地震において、46人が重軽傷を負いましたが、犠牲者はありませんでした。一方、住家は50棟が全壊、91棟が半壊、1,426棟が一部損壊という甚大な被害が出ました。特に、白馬村では、37棟が全壊と県全体の74%を占めるなど、



大糸タイムス社提供

被害が顕著な地域でありました。（被害状況は12月16日現在）

長野県では、白馬村、小谷村、小川村に災害救助法を適用したほか、今回の地震を「長野県神城断層地震」と名付けました。この地震による県内消防団員の活動は、3市1町3村で延べ3,007人（12月12日現在）となっております。以下は、長野県内の市町村のうち最も被害の顕著であった白馬村について記述します。

### 2 消防団の活動内容

白馬村消防団は、昭和32年2月15日発団し、現在は、本部及び3分団で構成されています。横山義彦団長以下、団員数は250名（うち女性消防団員は1名）で、定数250名に対し充足率は100%です。

平時の活動内容は、消防活動訓練・救助訓練・救命講習・ポンプ操法訓練・放水中継訓練・水防訓練等の訓練及び、防災訓練指導・応急手当指導・初期消火指導、火災予防、巡回広報等の住民指導などです。

11月22日22時08分に発生した長野県神城断層地震における白馬村消防団の活動内容ですが、発生直後に自主防災組織と協力して、これまでの訓練において自主防災組織が作成した「支え合いマップ」を基に行方不明者の安否確認を行い、直ちに被災者の捜索と救助を地域住民とともに行いまし



大糸タイムス社提供



大糸タイムス社提供

た。また、火を使う季節でもあったため、火災が発生しないよう水を撒くなどの対策を実施しました。その後は、被害状況把握、被災箇所応急処置を行うとともに、不在となった住宅の夜間不審者警戒や到着した支援物資を避難所や被災住民に配布を行いました。さらに、避難所で生活される方々への物資の配布を行う一方、不在家屋等の警備を12月初旬まで行いました。

今回の地震災害で、村内の堀之内区、三日市場区を中心に37棟の住家が全壊し22棟が半壊という被害になりましたが、幸い一人の犠牲者も出なかったことは特筆すべきものと考えます。この要因としては、これまでの自主防災組織の活動が十分に活かされたことが挙げられます。自主防災組織は、自治会として祭事・行事・子ども会・普請（地区作業）などのあらゆる場面において地域の歴史や繋がり、環境を守る活動を行っていますが、今回の地震発生直後、自主防災組織は、これまでの防災訓練や「支え合いマップ」を基にした安否確認作業及び救助活動・避難誘導を消防団等とともに行いました。

### 3 地域防災力の向上に向けて

以上が長野県神城断層地震における白馬

村消防団の活動状況ですが、約4年前の東北地方太平洋沖地震の翌日に発生した、長野県北部の栄村を震源とする地震の際も、住家の倒壊による犠牲者はゼロでした。このときの栄村消防団も平時から、小集落ごとに近い避難場所を定め、消防団員による迅速な安否確認を行い、助かった者が救助・救出を行うという防災訓練を繰り返し行うことで、人的被害を最小限に食い止めたという報告がされています。

今回の白馬村の事例も、地区の行事や清掃活動への積極的な参加による住民との「顔の見える関係」を構築してきたことが、いざという時の活動に大いに役に立ったのではないかと思います。消防力が脆弱な農村部にあっては、消防団が地域防災力の主力となって活動することの重要性を強く感じたところです。



大糸タイムス社提供

# 広島県安芸太田町における 雪害への対応

広島県安芸太田町消防団 団長 丸山 正隆



### 1 はじめに

広島県安芸太田町は、広島県の北西部に位置し、西中国山地に抱かれた人口約6,900人の自然豊かな町です。広島市消防局に消防事務を委託していますが、14分団、480名の団員（平成26年4月1日現在）からなる安芸太田町消防団がこの町を守っています。

平成26年12月5日（金）からの大雪により、安芸太田町では町内各地で発生した倒木により、国道・県道・町道等の通行止め及び停電が相次ぎ、特に那須集落では4世帯5人が孤立しました。6日、地元消防団員等がスキーを履いて集落を訪ね安否確認を実施し、翌7日、広島市消防ヘリコプターで5名を救助しました。

### 2 被害の概要

那須集落は、安芸太田町役場の西に約11kmの道のりの山中に位置し、普段は7世帯



那須集落までの道路状況

9名が暮らしている。

5日からの大雪により、集落に通ずる道路は倒木でふさがれ、車での行き来も不可能となり、倒木により電柱も倒れて停電も発生し、さらに電話も一部不通となった。那須集落に向かう道路等の除雪、停電対策を行うが大量の倒木により作業が難航し、4世帯5名が孤立した。

町の担当者は、「倒木が予想以上に多かった。重たい雪が降ったせいでは」と説明。



那須集落までの道路状況



スキーで那須集落へ向かう消防団員



那須集落での安否確認



ヘリによるピックアップ

広島地方气象台によると、安芸太田町には5日未明から6日朝にかけて大雪警報が発令されていた。「上空は真冬並みの寒気でも、地上はそこまで冷え込まず、水分の多い雪になった可能性がある」としている。

### 3 消防団等活動状況

12月6日（土）那須集落の状況を把握するため、山スキーの得意な2名（安芸太田町消防団1名、広島市消防局1名）が昼前に役場をスタートし約3時間30分かけて那須集落に到着した。

4世帯5名の体調、食事等の確保状況、暖房器具などの使用状況を確認した後、町役場へ帰庁して、那須集落への道路状況、停電の復旧見込み等を考慮すれば、早期の救助が必要と報告する。

7日早朝に、安芸太田町、安芸太田町消防団、広島市消防局、広島県警による合同

対策会議を開催し、広島市消防ヘリコプターの派遣と徒歩による救助隊（前述の2名を第一次隊とし、消防団員10名を含む21名を第二次隊とした。）の派遣を決定した。

同日午前9時46分、第一次隊2名が那須集落に到着。那須集落住民の4世帯5名に対して、ヘリコプターによる救助等の説明した後、5名全員を一か所に集合させる。

午前11時21分、避難体制が整ったため、広島市消防ヘリコプターが救助へ向かい、1便で3名、2便で2名の計5名を午前11時47分に救出した。

5名は75歳から86歳の男女で、町の公用車で社会福祉施設に移送され、午後1時頃、全活動隊が帰庁して救助活動を終了した。

夫婦で施設へ身を寄せた男性(84)は、「自宅では電気毛布やこたつ、ヒーターが使えず、寒さがこたえた。食料も少なくなっていたので、避難できてほっとした」と話した。



救出前の準備をする団員と救助部隊



役場近くの河川敷に到着

# 第24回全国消防操法大会 ポンプ車の部に優勝して

長崎県壱岐市消防団芦辺地区第一分団 分団長 百田 昌広



私たち壱岐市消防団（芦辺地区第一分団）は、分団長以下32名で編成しております。

今回、第24回全国消防操法大会ポンプ車の部におきまして、第23回大会の小型ポンプの部優勝（石田地区第四分団）に続き壱岐市消防団としては全国大会二連覇となりました。さらには、32年前の第8回全国消防操法大会ポンプ車の部で優勝された私たち芦辺地区第一分団の先輩方に続いて二度目の全国大会優勝となり、何とも



表彰式



感慨深いものがあります。

今回の選手は、全国大会出場経験者が4名、3番員と補助員が全国大会は初出場でありました。平成25年12月17日の選手会発足以来、家族や兄弟のように羨ましくらい仲がよく最後の最後まで強く強い絆で結ばれていたように感じました。

全国大会まで、長期にわたる訓練期間ではありましたが、選手をはじめ32名の団員全員が、

先輩方から受け継いできたスタイルをベースに、各々が考え、協力し役割を果たしてきた訓練中の姿が思い起こされます。

私たち芦辺地区第一分団は、地区大会には小型ポンプチームも出場しましたので、小型ポンプチーム、ポンプ車チームと共に1月からのランニングを主とする自主トレの仕上げとして、2月



操法開始



第一線延長



夜間訓練

「ぜったい勝ちたい！」という思いが、今回の全国大会において結果として出たことは何にも代えがたい喜びとなりました。

これも一重に、家族や地域皆様のご支援とご声援、関係各位皆様のご指導とご協力の賜物であります。本当に心より感謝いたします。

この感謝を胸に抱き、今後も地域防災に努め、誠心誠意消防団活動に取り組んで参ります。本当にありがとうございました。



第二線延長



第一線・第二線放水

に壱岐の島縦断選手全員10kmランを行いました。そして3月1日、全体訓練開始初日を迎えました。

週6日、19時から21時までを訓練時間としておりましたが、選手は毎日18時30分には訓練場所に着いて、準備、ウォーミングアップ等をしておりました。

団員の中には、飲食店を営むなど、どうしても夜間の訓練に参加しづらい団員もおります。ある時、小型ポンプチームの指揮者が提案してくれました。それは、前日使用して干しているホースを選手が訓練時間前に取り入れておりましたが、これを夜間訓練に参加しにくい2名の団員に依頼するという事でした。この2名は快く約8ヶ月間毎日、昼間仕事の合間にホースの取り入れと、選手の訓練中の水分補給の為の飲料水の準備をしてくれました。

その他の団員も、毎日タイム等細部までデータを取り記録する者、新入団員に選手支援方法を優しく厳しく指導する者、ひたすらホースを巻き直す者、選手と一緒に悩み考えながら指導する者。そうした支援を受けながら毎日の厳しい訓練に耐えてきた選手も、長期間の訓練中にはスランプに陥ることもあり、一人膝を抱えて悩み苦しんだり、悔しさを噛みしめている姿も見てきました。しかし、そうした団員全員の

# 第24回全国消防操法大会 小型ポンプの部に優勝して

岡山県岡山市消防団 都六区分団 指揮者 中山 龍哉



私たち、岡山市消防団（都六区分団）は、岡山市の南方に位置し、長閑な田園地帯がひろがる地域で、分団長以下30名で構成されています。

都六区分団は、過去に4回全国大会に出場しており、今回が5回目の出場となりました。

そのような歴史ある分団の代表選手として、全国大会に出場できることを光栄に思い今回の全国大会に挑みました。

## 全国大会までの経緯

岡山県においては、全国大会開催年の前年に全国大会の切符がかかっています。

平成25年5月の岡山県大会にておいて優勝を勝ち取り、かつ、全国大会の出場権を勝ち取りました。

翌年、26年の岡山県大会も優勝することができ、この県大会終了後から、全国大会に向けての非常に厳しい訓練が始まりました。

というのも、岡山県の操法大会は全国でも珍しく水出し操法をしない、カラ操法だったからです。

選手の中では3番員のみ経験者で、私指揮者、1番員、2番員においては水出しが初めての経験でした。

初めて、水を出した時の感想は、「こんなので全国大会に出られるのだろうか？」と思うほど散々な結果でした。

練習開始当初は水を出すことになれる為、週2回の練習から始め、カラ操法からの変更すべきところを体に覚えこませます練習からの開始で、各々の番員も戸惑いの連続だったと思います。

そんな初歩的なことから初めて、週2回の練習を、週3、週5と増やしていきました。

全員が日中は仕事をしてから、夜の7時くらいから10時くらいまでの練習をしてきました、当然、指導してくれる先輩方、支援をしてくれる団員、並びに応援をかってでてくれた近隣の分団の方々全員が日中の仕事を終えてからの練習でした。

余談で私事ですが、名誉ある選手宣誓の大役もあったので、選手宣誓の練習も大変でした。

## 大会当日

朝からどんよりと曇って非常に寒く、今にも雨が降りそうな朝でした。

そんな天候にも関わらず、全国からたくさん応援の方々がこられており、さすが、これが全国大会なんだと実感することができまし



壮行式



選手宣誓



た。

開会式でも、無事に選手宣誓も終わることができいよいよ競技開始となりました。

昼前ぐらいから小雨が降りだしさらに気温が下がって操法をするには不利な状況でした。

岡山県の出番は18番目と遅い方だったのでかなり待つというイメージがありましたが、あっという間の待ち時間でした。

いざコースに入場するぞという直前に、以前からずっと決めていた、「選手一人一人に声をかけよう」をしました。

「さあ！！いつも通り練習しよう!!」

いままで、このメンバーで何度も大会に出場してきましたが、選手一人ひとりに声掛けをしたのは今回が初めてでした。



操作ははじめ

みんなそれまで強張っていた表情が少しやわらいだような気がしました。

それからはあっという間の10分少々だったと思います。各番員思うところはありましたが満足できる素晴らしい操法ができたと思いました。

それから、得点が発表されるまでの時間が当日のなかで一番長かったように感じられました。

いざ、「小型ポンプの部、第18番、岡山市消防団」「総合得点91.0点、タイム40.29秒」

発表直後ほんの少し、会場にどよめきが起こったように感じられました、それまでの暫定1位の得点と同点だった事のどよめき、タイム差(0.77秒差)の逆転のどよめき、私自身の本番以上の興奮、周りからかけられる祝福の声。その時熱くこみ上げるものがありました。

### 都六区分団、念願の初全国制覇!!!

岡山県初の小型ポンプの部優勝、岡山市初の全国優勝、何もかもが初めてづくしの名誉ある優勝だったと思います。

しかしながら、この優勝は選手だけで成しえた結果ではありません。

選手を支えてくれた、家族、分団員、近隣の消防団、地域の皆様、さらには担当地区の消防職員の方々、岡山市消防団、一番お世話になった岡山県消防学校の教官、いろいろな皆様のご支援があったからこそこの優勝でした。

皆様に感謝の気持ちを持ち、これからも地域住民の為に消防活動を行っていきたく思います。本当にありがとうございました。



表彰式



競技を終えて

# 第24回全国消防操法大会優秀選手紹介

(公財)日本消防協会

平成26年11月8日(土)、第24回全国消防操法大会が、東京臨海広域防災公園において、約1万1千人が参加し盛大に開催されました。

この大会は、2年に1回開催され、各都道府県大会の予選を勝ち抜いた48消防団が、ポンプ車の部、小型ポンプ車の部の2部門に分かれて、速さ、正確性、規律の正しさを競い合います。

大会の最後には、日本消防協会会長特別賞として、各種目の指揮者並びにそれぞれの操作用員について、全出場者の中から最優秀者1名を選考し、優秀選手賞が授与されました。

今回は、この大会において優秀選手賞を受賞された方々をご紹介します。

## 【ポンプ車の部】

指揮者 北海道日高西部消防組合 平取消防団 第4分団 班長 福澤 肇

全国大会直前、北の大地は吐息白く、ジェットヒーターで暖を取りながらの訓練となりました。寒さから体も思うように動かず、隊員全員が最後まで怪我に悩まされました。

火災防ぎょ活動に向かう事を念頭に、「規律」・「節度」に主眼を置く訓練を繰り返し、結束の固さ、北海道大会をともに戦った他チームの思いを胸に全国大会へ臨みました。優秀選手賞という大変名誉ある賞を受賞できたのは、6名の仲間と応援してくれた皆様のおかげです。ありがとうございました。



1 番員 長崎県壱岐市消防団 芦辺地区第1分団 団員 村田博城



あっという間の一年でした。選手に選ばれ、まず体作りから始め、チームに迷惑をかけないようにと心掛けていました。我が分団は訓練礼式である、気をつけ、休め、回れ右、駆け足、敬礼に多くの時間を費やします。頭の前から指の先まで神経を集中させ、点を線にする事、チームを一つに、動き一つ一つを確立させてから操法の訓練に入ります。好きな言葉があります。『静と動』……。今回、優秀選手に選んでいただき、最高の一年でした。やってきた事が間違いではなかったと確信した瞬間でした。ご指導頂いた、全ての皆様と、支えてくれた家族に感謝です。

## 2 番員

富山県砺波市消防団 庄下分団 団員 瀬尾光平

市大会から全国大会までの約半年間、分団員をはじめ、消防職員、地域の皆様方に支えられ、無事に訓練を積み重ねることが出来ました。大会当日も、多くの方々の応援の下、これまで教えて頂いたことを全部出し切ることが出来たと思います。個人賞というよりも、これまで支えて頂いた皆様方と一緒に頂いた賞と感じており、感謝の気持ちで一杯です。今回、経験できたことを今後の消防団活動に活かし、地域の安心・安全に貢献していきたいと思います。



## 3 番員

長崎県壱岐市消防団 芦辺地区第1分団 団員 中村天洋



今回で2回目となる操法大会で、自分にとっては初めての全国大会でした。会場の雰囲気にもまれプレッシャーで押し潰されそうになりましたが、分団の先輩後輩、指導員の方、家族、地域と共に努力してきた一年間を思い出して乗り越えることができました。

練習で上手くいかない、心が折れそうになるときもありましたが、『日本一の三番員ではなく、日本一努力した三番員』をいつも心に頑張ってきました。初出場初優勝、初MVPと最高の結果となりました。本当に最高の一年間でした。

## 4 番員

福岡県小都市消防団 第1分団 班長 松尾紀亮

県大会訓練初日の7月22日の訓練中に目眩とともに倒れ、こんな訓練が4か月間も続くのかという不安から私の訓練は始まりました。訓練中は、周りの選手についていけない焦りから、失敗の連続でした。しかし、全国大会本番直前に、多くの方から叱咤激励いただいたおかげで、落ち着いた状態で操法に臨めました。

訓練を乗り切れたこと、そして優秀賞を受賞できたことは、ご支援いただいた会社、団員そして家族など多くの方のおかげだと感謝しています。現在は、公私ともに、人の支えになれる人材になれるよう、今まで以上にやる気と自信を持って頑張っています。



## 【小型ポンプ車の部】

指揮者

滋賀県甲賀市消防団 第一分団 班長 河尻俊一

確かに連日早朝よりの訓練は体力面でも大変でしたし、仕事・家庭と両立させることは簡単なことではありませんでした。しかしそんな苦労は、全国大会に向け取り組んできた全ての選手が同じであったのだらうと思います。

全国の同志が同じ思いで訓練に取り組み、同じように悩み苦勞し、最後には何物にも変えられない達成感を得たのではないのでしょうか。どのような賞よりも、一人一人のその達成感こそが誇るべきものであると思います。



## 1 番員

島根県奥出雲町消防団 阿井分団 団員 西村 聖

この度全国消防操法大会に参加して、地域や職場、家族への感謝の気持ちを改めて感じる1年となりました。私達の分団は全国大会に出場できる機会が20年に1度しかありません。県大会の練習からの2年間、悔いの残らない操法という思いで、練習を重ねてきました。消防署や分団長以下、指導部を初めとした団員の皆さんに支えられた事、また素晴らしいチームの仲間で全国大会に望めたことが自分達の結果に繋がったと感じています。



## 2 番員

青森県階上町消防団 第1分団 部長 佐京喜一



私は、操法競技に携わるようになり、6年余りでしたが、長年この競技に選手として訓練を積み重ねてきた同じ選手でもある先輩方からの熱い指導や、町消防団や消防署員の温かいサポートがあり、何より第1分団の団結力とチームワークがあったからこそ、全国大会への出場と私自身、優秀選手賞を受賞できたと感じております。

今回、全国大会出場にあたり関わってくださった方々に心から感謝申し上げます。

## 3 番員

山梨県南アルプス市消防団 櫛形分団第4部 班長 野田雄一

練習が終わって、正直ほっとしています。指導員の指示の下、前向きに頑張りました。5ヶ月間という練習期間は、長いようであっという間だったような気がします。結果も出せたので、期間中1日も休まずに練習に励んだ甲斐がありました。支援とサポートをしてくれた指導員や分団の方々に、「本当にありがとうございました。」と言いたいです。

みんな仲良く、やるときはやる！操法を通じて、部や支団のみんながひとつになれた事は、今後の消防団活動の大きな糧になる事と思います。今年度も残りあとわずか、来年度は部長として注目されると思いますので、よろしくをお願いします。



# 平成26年秋の褒章（消防関係）

総務省 消防庁

平成26年秋の褒章（消防関係）受章者は、92名で褒章別内訳は次のとおりです。

紅綬褒章 1名，黄綬褒章 7名，藍綬褒章 84名，計 92名

（受章者名等は、別添の受章者名簿に記載されています。）

発令年月日 平成26年11月3日（月）

受章者のうち、

- ① 紅綬褒章は、災害現場等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した者
- ② 黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の研究開発及び製造販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに、業界の発展に大きく寄与した者
- ③ 藍綬褒章は、消防団員や婦人（女性）防火クラブ員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した者を対象としています。



## ○伝達式日程

- 1 日 時 11月14日（金）11時15分～11時45分
- 2 場 所 スクワール麹町3階「錦華」の間  
千代田区麹町六丁目6番地
- 3 出席予定者 総務大臣、消防庁長官、消防庁次長、国民保護・防災部長、  
消防大学校長、消防研究センター所長、総務課長



賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	北 海 道	現 網走地区消防組合 女満別消防団 分団長	つるし 土 屋 佳 信 (64)	藍 綬	福 島 県	現 会津若松市消防団 副団長	あな 昔 川 公 一 (64)
藍 綬	北 海 道	現 南十勝消防事務組 合広尾町消防団 班長	あが 我 妻 榮 (67)	藍 綬	茨 城 県	現 美浦村消防団 団長	たけ 武 田 芳 雄 (64)
藍 綬	青 森 県	現 大間町消防団 分団長	いせの 碓 谷 勳 (65)	藍 綬	茨 城 県	現 神栖市消防団 団長	の 野 口 来 (71)
藍 綬	青 森 県	現 平川市消防団 副団長	お 小山内 勝 廣 (64)	藍 綬	栃 木 県	現 那須塩原市西那須 野消防団 副団長	あ 松 本 忠 太 (64)
藍 綬	青 森 県	現 鶴田町消防団 副団長	きく 菊 池 章 弘 (59)	藍 綬	栃 木 県	現 那須塩原市西那須 野消防団 団長	よこ 横 田 一 雄 (65)
藍 綬	秋 田 県	現 大潟村消防団 副団長	たに 谷 口 良 一 (57)	藍 綬	群 馬 県	現 前橋市消防団 副団長	いの 猪 俣 幸 雄 (53)
藍 綬	秋 田 県	現 八郎潟町消防団 副団長	わた 渡 部 壽 一 (64)	藍 綬	群 馬 県	現 大泉町消防団 副団長	く 久保 田 稔 郎 (60)
藍 綬	山 形 県	現 米沢市消防団 副団長	おお 大 平 光 信 (60)	藍 綬	群 馬 県	現 高崎市消防団 団長	た 田 中 宏 (62)
藍 綬	山 形 県	現 鶴岡市消防団 副団長	すず 鈴 木 雅 紀 (57)	藍 綬	千 葉 県	現 富里市消防団 副団長	あき 秋 葉 政 則 (58)
藍 綬	福 島 県	現 飯館村消防団 副団長	じょう 庄 司 久 則 (67)	藍 綬	千 葉 県	現 市川市消防団 副団長	えの 榎 本 敬 良 (57)
藍 綬	福 島 県	現 南相馬市消防団 団長	なが 長 澤 初 男 (66)	藍 綬	千 葉 県	現 千葉市消防団 団長	しろ 白 井 正 巳 (65)
藍 綬	福 島 県	現 白河市消防団 副団長	ふじ 藤 田 文 夫 (59)	藍 綬	千 葉 県	現 成田市消防団 副団長	ゆ 湯 浅 雅 明 (58)
紅 綬	東 京 都	人命救助者	いけ 池 原 巖 (55)	藍 綬	東 京 都	現 東久留米市消防団 団長	よこ 横 山 隆 徳 (56)
藍 綬	東 京 都	現 羽村市消防団 団長	あ 新 井 敏 行 (52)	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市宮前消防団 分団長	い 井 梅 均 (63)
藍 綬	東 京 都	現 石神井消防団 副団長	え 榎 本 優 (62)	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市幸消防団 副団長	うえ 上 田 常 晴 (68)
藍 綬	東 京 都	現 日本橋消防団 副団長	おお 大 武 邦 (72)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市神奈川消防 団 分団長	えだ 枝 川 一 行 (67)
藍 綬	東 京 都	現 蒲田消防団 副団長	か 加 藤 俊 夫 (65)	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市臨港消防団 分団長	あ 岡 田 裕 志 (67)
藍 綬	東 京 都	現 大井消防団 副団長	かも 鴨 川 清 志 (67)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市磯子消防団 副団長	あ 敷 田 清 治 (67)
藍 綬	東 京 都	現 京橋消防団 副団長	こ 小石川 勉 (74)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 副団長	やま 山 下 長 男 (66)
藍 綬	東 京 都	現 小石川消防団 副団長	さ 佐 藤 善 通 (65)	藍 綬	神 奈 川 県	元 横浜市金沢消防団 分団長	わた 渡 邊 良 市 (67)
藍 綬	東 京 都	現 田園調布消防団 分団長	た 田 中 忠 昭 (72)	藍 綬	富 山 県	現 南砺市消防団 副団長	しま 嶋 田 健 治 (66)
藍 綬	東 京 都	現 芝消防団 副団長	はや 早 川 喜三郎 (66)	藍 綬	石 川 県	現 小松市消防団 分団長	しま 島 村 敏 行 (63)
藍 綬	東 京 都	現 荒川消防団 副団長	ち 茂 木 克 夫 (64)	藍 綬	石 川 県	現 七尾市第1消防団 副団長	はやし 林 義 昭 (62)
藍 綬	東 京 都	現 志村消防団 団長	やま 山 口 彦 市 (62)	藍 綬	福 井 県	現 嶺北消防組合坂井 消防団 副団長	あ 北 風 誠 (60)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	福 井 県	現 嶺北消防組合あわ ら消防団 副団長	みち 道 谷 成 雄 (57)	藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市黒石消防 団 団長	しば 柴 山 益 行 (64)
藍 綬	山 梨 県	現 甲府市消防団 副団長	くぼ 窪 寺 文 明 (61)	藍 綬	三 重 県	現 鈴鹿市消防団 副団長	おか 岡 田 欣 三 (62)
藍 綬	山 梨 県	現 甲府市消防団 副団長	よこ 横 山 賢 賢 (56)	藍 綬	三 重 県	元 四日市市楠消防団 分団長	あがし 東 川 龍 一 (61)
藍 綬	岐 阜 県	現 本巣市消防団 副団長	あさ 浅 野 定 夫 (63)	藍 綬	滋 賀 県	現 大津市消防団 副団長	とよ 富 田 博 文 (63)
藍 綬	岐 阜 県	現 関市消防団 副団長	いの 井 上 久 朗 (55)	藍 綬	京 都 府	現 井手町消防団 副団長	おく 奥 田 俊 夫 (51)
藍 綬	岐 阜 県	現 神戸町消防団 副団長	か 加 納 隆 仁 (60)	藍 綬	大 阪 府	現 高槻市消防団 副団長	いし 石 田 義 光 (61)
藍 綬	岐 阜 県	現 岐阜市北消防団 団長	のの 野々村 潔 (61)	藍 綬	大 阪 府	現 吹田市消防団 部長	うら 漆 谷 清 美 (68)
藍 綬	岐 阜 県	現 瑞浪市消防団 副団長	やま 山 田 桂 三 (56)	藍 綬	大 阪 府	現 富田林市消防団 副団長	く 久 保 修 (67)
藍 綬	岐 阜 県	現 垂井町消防団 副団長	よら 米 山 幸 夫 (58)	藍 綬	大 阪 府	元 交野市消防団 分団長	ひら 平 井 清 隆 (63)
藍 綬	静 岡 県	現 浜松市消防団 副団長	かわ 川 合 正 二 (55)	藍 綬	大 阪 府	現 枚方市消防団 副団長	もり 森 井 茂 行 (64)
藍 綬	静 岡 県	現 熱海市消防団 団長	まき 牧 野 克 昭 (64)	藍 綬	大 阪 府	現 池田市消防団 分団長	やま 山 田 助 松 (64)
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市富士見台 消防団 団長	ただ 足 立 一 郎 (56)	藍 綬	奈 良 県	現 河合町消防団 団長	こ 小 西 克 始 (55)
藍 綬	鳥 取 県	現 米子市消防団 分団長	いけ 池 口 秀 雄 (73)	黄 綬	奈 良 県	現 ㈱第一防災工業 代表取締役	すず 鈴 木 龍 男 (62)
藍 綬	岡 山 県	現 久米南町消防団 副団長	じき 直 原 範 男 (59)	黄 綬	香 川 県	現 ㈱ツノダ防災 取締役会長	つの 角 田 晃 三 (79)
藍 綬	福 岡 県	現 宮若市消防団 副団長	た 田 代 和 彦 (67)	黄 綬	福 島 県	現 三和防災㈱ 代表取締役	よこ 横 山 彰 秀 (69)
藍 綬	福 岡 県	現 飯塚市消防団 副団長	はやし 林 純 一 (63)	藍 綬	富 山 県	現 富山県婦人防火ク ラブ連絡協議会 会長	おお 大 野 純 子 (83)
藍 綬	福 岡 県	現 久留米市消防団 副団長	はら 原 幸 行 雄 (64)	藍 綬	和 歌 山 県	現 和歌山県婦人防火 クラブ連絡協議会 会長	やま 山 司 嘉代子 (81)
藍 綬	福 岡 県	現 嘉麻市消防団 副団長	ふく 福 澤 秀 久 (65)	黄 綬	岩 手 県	現 千住スプリンクラー ㈱取締役技術本部 長兼開発設計部長	あき 菊 池 哲 郎 (66)
藍 綬	熊 本 県	現 熊本市消防団 副団長	お 緒 方 孝 典 (57)	黄 綬	東 京 都	現 帝国繊維㈱ 上席顧問	さ 佐 藤 英 夫 (79)
藍 綬	熊 本 県	現 熊本市消防団 副団長	関 関 谷 英 二 (81)	黄 綬	大 阪 府	現 上田消防建設㈱ 代表取締役社長	ま 馬 門 清 治 (68)
藍 綬	宮 崎 県	元 都城市高崎消防団 団長	か 鍛 屋 辰 年 (62)				
藍 綬	宮 崎 県	現 宮崎市消防団 副団長	しま 島田谷 次 男 (58)				
藍 綬	宮 崎 県	現 えびの市消防団 副団長	しろ 白 石 昌 彦 (61)				
黄 綬	大 阪 府	現 大日工業㈱ 代表取締役社長	き 木 村 勝 彦 (74)				



# 「いかなる災害にも対応 できる消防団を目指して」



南島原市消防団 団長 大山 秀孝

## 1 南島原市の概要

南島原市は、長崎県の南部にある島原半島の南東部に位置し、北部は島原市、西部は雲仙市と接しており、有明海をはさんで熊本県天草地域に面しています。総面積、169.92km<sup>2</sup>、人口49,799人、世帯数18,869世帯という、広い地域に居住地が点在する都市です。

地勢は、1,000mを超える雲仙山麓から南へ広がる肥沃で豊かな地下水を含む大地を有し、魚介類豊富な有明海及び橘湾に広く面する海岸線を持っています。気候は温暖で、適度な降雨量もあり、日照時間にも恵まれています。また、日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園及び島原半島県立公園に指定されており、雄大な山々と美しい海を併せ持った風光明媚な地域です。

産業は、農業、漁業や製造業が盛んで、特に「島原手延そうめん」は全国第2位の生産高を誇っています。また、海の玄関口として、450年前に開港した口之津港は、南蛮貿易の拠点として栄え、それと同時にキリスト教が伝来しました。このような地域の文化を保存・保護するために、現在では長崎県と共に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界文化遺産登録を目指しています。



雲仙山麓から南に広がる南島原市

## 2 南島原市消防団の概要

平成18年3月31日に、8つの町が合併し、南島原市が誕生しました。消防団もそれと同時に、8つの団が合併し、発足しました。ただ、管轄区域が広範囲にわたるため、旧8町ごとに管轄する支団を置いています。

組織は、平成26年11月1日現在で、51分団で編成されており、うち、1個分団はラッパ隊を兼ねています。

団員数は、市条例定数1,343名に対し、1,298名であり充足率96.6%と高い水準を維



新入団員訓練の様子



持っています。

消防車両等の設備状況は、指揮車8台、水槽付消防ポンプ自動車1台、消防ポンプ車19台、小型動力ポンプ積載車33台を配備し、計61台で活動しています。



全国火災予防運動週間の火災予防啓発パレード

### 3 南島原市消防団の活動

団の主な活動は、1月の出初式に始まり、4月の新入団員訓練、5月には梅雨入り前に、危険箇所点検、年2回春・秋の火災予防週間の防火啓発パレードなど、このほか、社会福祉施設や自主防災組織などと各種消防訓練を行っています。各分団では、毎月2回、消防車両の機械器具点検、年に数回、水利の点検を行い、火災等の災害発生の際には、迅速な活動が行えるように備えています。平成26年から島原半島の中央部に位置する「雲仙地溝帯」の活断層を震源とした大規模地震を想定した訓練で、倒壊家屋からの救出訓練や、その場の材料を基に作る簡易担架による搬送訓練などを行い、いかなる状況においても市民の安全・安心を守るため日々訓練を行っています。

また、地域の祭りや花火大会、運動会などでも地域住民と一体となり活動しています。

### 4 おわりに

平成2年に噴火が始まった雲仙普賢岳噴火災害では、多くの生命や財産が被害を受

けました。私も、火砕流により自宅が全壊し、避難生活を余儀なくされました。当時の災害を経験した消防団員も減り、噴火災害で活動した団員が少なくなってきています。今では、その時噴出した溶岩は山頂近くで溶岩ドームとなり、「平成新山」と命名され、島原半島の象徴となっています。現在の雲仙岳は、噴火警戒レベル1「平常」ではありますが、気象庁が常時観測する47の火山になっています。また、先にも触れたとおり、島原半島には、東西に延びる「雲仙地溝帯」という全長14kmの活断層があります。このため、南島原市は、いつ噴火や地震による災害が発生するか分かりません。これから、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録やユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が支援する「世界ジオパーク」の活動が広がることにより、今後ますます観光客が増えてくることが予想されます。災害が発生した場合には、消防団の活動がたいへん重要になると認識しています。そのため、平時から様々な想定の実施や先人たちの災害活動状況の伝承などが、迅速かつ的確な消防団活動を実施するために必要となってきます。そして、全団員が一致団結し安全に活動できる体制を整えていくため、今後も努力を重ねて参ります。



キリスト教が伝来した戦国時代のクリスマスをイメージした祭り「フェスティバス・ナタリス」のたいまつ行列



## 「志操堅固」



野田村消防団 団長 弐又 文雄

### 1 野田村の紹介

千年以上の昔から都の貴族たちの歌にも詠まれた名勝地で、三陸復興国立公園の一部でもある十府ヶ浦海岸を抱く野田村は、岩手県の北東部に位置し、西部が北上山地、東部が太平洋に面する東西11.3km、南北に13.8km、総面積80.83km<sup>2</sup>、人口4,494人、世帯数1,650世帯（平成26年9月現在）の村です。一次産業就業者の割合が高く、養豚、養鶏業や漁業が盛んであり、ホタテの養殖、ウニやアワビの名産地として知られています。また、古来から塩の生産が行われており、「野田塩」として内陸へ運ばれ貴重な品とされてきました。

平成23年3月11日の東日本大震災で甚大



十府ヶ浦海岸

な被害を受け、現在も再生・復興に向けて村民一丸となって取り組んでおります。

### 2 野田村消防団の概要

野田村消防団の歴史は古く明治43年2月野田村消防組として結成され、組員40名、手押しポンプ1台で活動を開始しています。現在は団本部、9分団で構成されており、平成26年6月現在で総勢219名、内女性消防団員2名が在籍しています。また、司令車1台、消防ポンプ自動車3台、小型動力ポンプ付積載車11台を運用し、村民の安全、安心のため昼夜を問わず活動しています。



消防演習分列行進

### 3 野田村消防団の活動

主な活動は火災における消火活動、自然災害発生時等の現場活動と、全分団が実施する自主警戒や特別警戒など火災予防のための活動です。この他、野田村総合防災訓練や津波避難訓練へ参加、林野火災を想定した遠距離中継送水訓練、土嚢工法訓練、河川水門取扱い訓練、心肺蘇生法講習受講等有事に備えた日々の活動は多岐にわたります。

野田村は太平洋に面しているため、明治三陸大津波をはじめ繰り返し津波被害を受けた歴史があります。そして記憶に新しい、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、津波により死者37名、全壊692棟を含む家屋被害1,046棟の大きな被害を受けました。野田村消防団としても活動中の団員3名の尊い命を失うと共に、消防屯所や車両の流失等多くの被害を受け、自然の脅威をまざまざと見せつけられました。

このように、村全体が被災地となった時、近隣市町村の消防団の皆様をはじめ日本中から多くの激励と人的支援、物的支援を受けたことは非常に心強く、村民に勇気と希望を与えて頂いたと思っております。

現在、この東日本大震災を教訓とし、村民の負託に応え、野田村防災の一翼を担うべく、消防団の教育、訓練を継続し強化に取り組んでおります。また、まだまだ復興途中ではありますが、震災の記憶を風化させないよう、経験、教訓を後世に伝える事も私どもの役割だと思っております。



土のう工法訓練

### 4 おわりに

東日本大震災時には多くの方々にご支援いただいたことをこの場を借りてお礼申し上げます。

近年、野田村も人口減少、高齢者人口が増加傾向であり、それに伴い消防団員の確保が困難となってきています。また、団員の平均年齢も年々高くなっており、組織運営や現場活動等への影響が危惧されています。そこで、街頭での団員募集活動、広報紙等での募集を行い団員確保に努めると同時に各団員の意識の高揚を図っております。

住宅用火災警報器の普及や広報活動等により火災件数の減少が見られますが、自然災害は件数、規模ともに拡大しているように思われます。津波も必ずまた来ます。我々は、住民の生命・身体・財産を守り、「安全・安心で活力ある村づくり」のため、地域密着の活動を心がけ、住民に信頼されるよう、消防団活動に精一杯取り組んで参りたいと思います。



## 「消防団の装備充実を 目指して」



中津市消防団 団長 鷗田 義明

### 1 中津市の紹介

中津市は、大分県の西北端に位置し、周防灘に面し、古くから交通の要衝として栄え、現在平成26年度末の開通をめざし、市を東西に走る東九州自動車道の建設が進められています。

平成17年3月に中津市と下毛郡3町1村が合併し、面積は491.17km<sup>2</sup>、市域の約80%を山林原野が占め、人口は85,437人（平成26年11月1日現在）となっています。

耶馬日田英彦山国定公園の中にあり自然に恵まれ、特に秋の紅葉シーズンには、深耶馬溪地区の一目八景をはじめ、本耶馬溪地区の青の同門・競秀峰など、紅葉の名所を中心に、市域の山々が色鮮やかに着飾ります。福沢諭吉が幼少期を過ごしたまちとして知られ、また、平成26年の大河ドラマでは、中津城の初代城主である黒田官兵衛孝高を主人公とする「軍師官兵衛」が放映されました。

他方、工業面では、平成16年にダイハツ車体株式会社（現ダイハツ九州株式会社）が本社を中津市に移転し、関連企業の進出も相次いでいます。

### 2 中津市消防団の概要

中津市消防団は、平成17年3月の1市3町1村の合併により方面団制を導

入し、現在は5方面団、73分団の構成となっています。

平成26年4月1日からOBを中心とした機能別消防団員制度を導入し、団員を128名増員することができ、6月には総務大臣から感謝状をいただきました。また、8月1日には初の女性機能別消防団員が7人誕生、その後2人が加入し、現在9人の女性機能別消防団員で『女性だからできる、女性に求められる』消防団活動をめざし、イベントでのPR活動や防火防災のための広報活動等を行っています。

11月1日現在では1,337人（定数1,481人）となり、地域の安全・安心を確保するため、地域の防災の要として活動しています。

### 3 中津市消防団の活動

主な消防団活動は、1月に挙行する出初式に始まり、重要文化財消防訓練、団員が



出初式



平成26年度大分県消防操法大会

一致団結して挑む消防操法大会、風水害や土砂災害に備えての水防工法訓練、春季及び秋季の火災予防週間中はもとより、一年を通しての定期的な夜間警戒、自治会や事業所、特に多数の避難困難者が入所している老人福祉施設等の防火訓練に積極的に参加し、住民との信頼関係の強化・防火意識の高い社会づくりを目指し、地域住民の生命・身体・財産を守る活動に励んでいます。

中津市では、平成24年7月の九州北部豪雨で2度に亘って山国川が氾濫し、これまで経験したことのない大きな被害を受けました。この時、消防団員は混乱する現場において警戒や住民の避難誘導、災害現場での活動を行いました。消防団員と各支所あるいは消防本部との通信手段が十分でなく、消防団員の個人の携帯電話に頼らざるを得なかったために、現場の状況把握などに時間がかかり、消防団員との通信手段の確保の必要性から、今年5月1日に双方向の情報伝達可能なIP無線機を73箇分団の全車両と幹部など100台の配備をしました。

今回導入したIP無線機は、ドコモの携帯電話のパケット通信帯域を利用して通話ができるため、ドコモのエリア

であれば全国どこでも通じることや、車載用にはGPS機能を備えており、現場で活動する団員の位置確認ができ、本部からの指揮が取り易いなどのメリットがあります。さらに、免許取得の必要がなく、このIP無線機は、端末機を購入するだけで利用でき、維持費についても、1回線当たりの通信料のみで、年間の保守料が掛からないというのが、最大のメリットです。

消防団は非常時に備え、いつでも対応できるように毎月19日に行われているパトロールの際などに、無線の回線テスト及びパソコン上でのGPSの位置情報を確認しながらの命令系統の訓練を実施しています。

#### 4 終わりに

消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自ら守る」という郷土愛の精神に基づき、地域住民の安全・安心の確保のため、昼夜を問わず果敢に活動しています。これからも市民の皆様の負託に応えていくよう、備えを充実させ、関係機関と協力、連携をより密にし、更なる心身の鍛錬と技術の錬成に努め、より一層の精進をしていきたいと思えます。



水防訓練



## シンフォニー（和歌山県）

# 「活動を通して今後を考える」

田辺市消防団 女性分団 分団長  
津田 康代

私の住む田辺市は、人口約76,000人で和歌山県の南部に位置しており、日本初のナショナルトラスト運動の地、また、世界遺産登録10周年を迎えた熊野古道があります。合気道の開祖植芝盛平の生誕の地であり、博物学・生物学・民俗学の学者である南方熊楠が愛し、終焉の地とした自然豊かな歴史の街です。

平成17年に周辺市町村と合併し、近畿地方で最も大きな面積の市となりました。

田辺市消防団の団員数は約1,000人で、1団本部、5支団、31分団の組織体制となっています。

私たちは、平成21年4月に女性分団を結成して以降、様々な活動を通じて市民の皆様へ防災意識の向上等と呼び掛けています。

女性分団の活動としましては、災害現場に出動はしませんが、主に火災予防に関する広報・啓発活動、救命講習の指導をしています。

広報・啓発活動は、市内の幼稚園、保育所で紙芝居、腹話術で防火指導を行っています。



幼年消防クラブ結成式での腹話術



救急医療週間行事での心肺蘇生法指導

腹話術の人形も新たに購入し、「しょうちゃん」「ほうちゃん」と名付け、子供達の人気者となっています。

また、私たち女性分団は、応急手当普及員の資格を全員取得しています。

小中高の学生、学生の父兄、事業所などの各種団体、一般市民、消防団員等の全てを対象に救命講習の指導をしています。学校の父兄の場合は女性の参加者が多く「女性団員の指導で緊張せずに受講できた!」と言っていたできるようになりました。

毎年9月の救急医療週間には、大手スーパーで救急のイベントを実施しています。1日救急隊長任命式、街頭広報、応急手当体験コーナー、血圧測定コーナーなどが実施されて、大勢の家族連れで賑わいます。また、田辺市消防団音楽隊の演奏も実施され、大評判となっています。

私たち女性分団は、応急手当の指導と街頭広報でこのイベントに参加しています。子ど

も達や一般の方々にスタンブラリー形式で人工呼吸、胸骨圧迫、AEDの体験をしていただき、応急手当の必要を伝えています。応急手当てを知る機会のない方々も気軽に参加できるので、年々参加者も増えています。

春と秋の火災予防運動では、高齢者宅の防火診断に署員さんと参加しており、女性分団が行くことによって喜んで迎えて頂けるようになりました。

田辺市民は防災に対する意識が高く、将来起こると予想されている東南海・南海地震や毎年のように来襲する台風災害などに備えており、年に数回防災訓練を実施しています。そういった防災訓練でも女性分団は、救命講習や、応急手当、簡易担架の作成の指導をしています。

私たち女性分団の基本的な活動は、月に1度の会議ですが、会議の中で、救命講習の勉強会、簡易担架の作り方、紙芝居、腹話術の練習をすることもあり、全員が前向きに活動に参加しています。

出初式では式典の受付、進行の補助を行っており、分列行進では団旗に次ぐ行進の先頭を歩き、新年早々身の引き締まる思いで参加しています。

女性分団として3年目の平成24年11月には全国女性消防団ポンプ操法大会参加のお話がありました。最初は今のメンバーでは無理と判断し、一旦お断りいたしました。

和歌山県で大会に参加していないのは田辺市だけとのことで、再度依頼があり、それではと若い団員を探して3名入団してもらい、団本部が全面的に指導するというお引き受けいたしました。

4月にメンバーを決定し、礼式訓練からスタートいたしました。

最初は署員さんの指導でしたが、7月からは田辺市消防団の各分団から男性の消防団員さん約25名が指導員となり、毎週ご指導していただきました。

まだ肌寒い春に練習を始めたころは、半年で大会に出られるようになるのかと思いまし

たが、梅雨、猛暑の夏と季節は過ぎて行き、秋の風を感じる頃には、このまま怪我もなく無事大会を迎えて欲しいと思える程メンバーは成長しました。

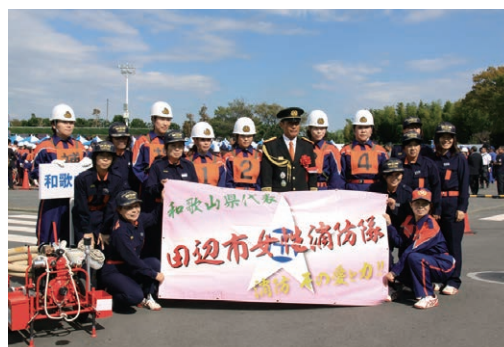
練習回数は25回ですが、自主練習をしたり、最後の2か月は週3回の練習をし、それぞれ家庭や仕事を持ちながら尚且つ活動にも参加し、本当に団員たちが頼もしく思えました。選手以外の団員のサポートもあり、深い絆と交流が持てました。

全国大会は、台風の影響で前日のリハーサルに参加することが出来ませんでした。当日は緊張感の中、練習の成果・集中力と仲間を信じることで自分たちのベストタイムを出すことが出来ました。順位はどうあれ、練習では出すことの出来なかったベストタイムを出せたことは、目標に向かって努力した結果と男性団員さんを始め周りの方々にサポートしていただいたおかげです。

今後は今まで活動してきたことをもっと活かせるように自分たちのスキルアップを目指し、女性分団の確固たる位置付けをしたいと思っています。

平素の災害では出動することはありませんが、大災害の場合は、後方支援をすることになります。女性でしか出来ない事、女性だから出来る事は何かを考えることが今後の課題になります。

活動時には、常に笑顔を忘れずにをモットーに、今後も地域に役立つ活動を目指して行きたいと思います。



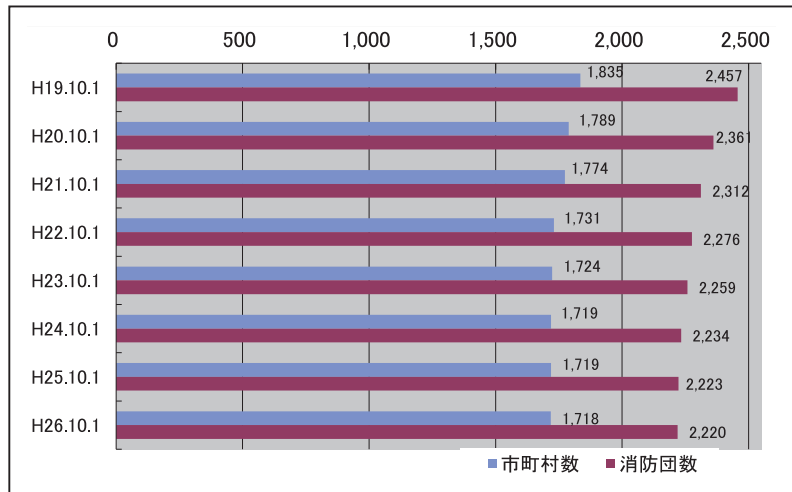
第21回全国女性消防操法大会出場

# 消防団の現況（平成26年10月1日現在）

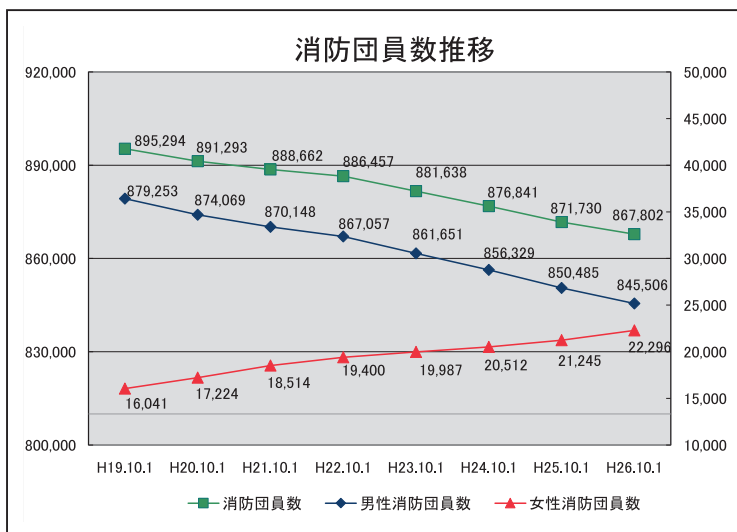
（公財）日本消防協会

## 1 消防団数の動向

消防団の数は、市町村合併に伴う消防団の統合などで減少が続いていますが、減少幅は年々縮小傾向にあります。平成19年は2,457あった消防団が、平成20年には2,361団と100団近く減少しました。それ以降、平成21年は2,312団（前年比49団減少）、平成22年は2,276団（同36団減少）、平成23年は2,259団（前年比17団減少）、平成24年は2,234団（前年比25団減少）と減少



【表1】市町村数及び消防団数の推移（日本消防協会調べ）



【表2】消防団員数の推移（日本消防協会調べ）

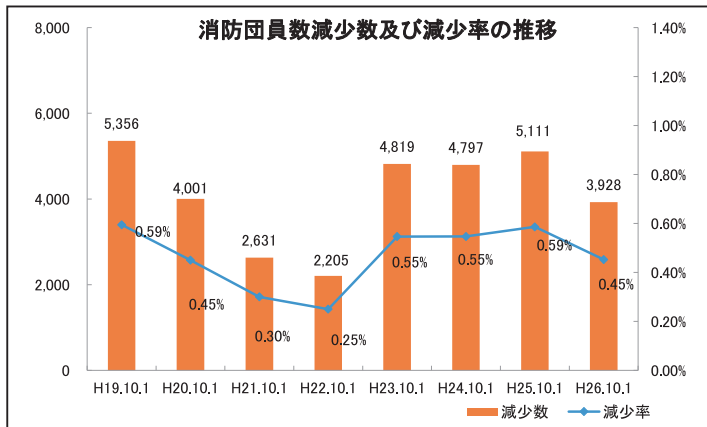
してきましたが、平成25、26年は前年比1団の減少にとどまり、市町村合併に伴う消防団の統合は落ち着いてきていると推測されます。【表1参照】

## 2 消防団員数の動向

消防団員数は、社会環境の変化（少子高齢化による若年層の減少、就業構造の変化、地域社会への帰属意識の希薄化等）から減少が続いています。

平成19年から平成22年までの状況を見ると、平





【表3】 消防団員数減少数及び減少率の推移（日本消防協会調べ）

成19年は895,294人、平成20年は891,293人（前年より4,001人減少）、平成21年は888,662人（同2,631人減少）、平成22年は886,457人（同2,205人減少）と、減少数は徐々に低下する傾向がみられました。これは、消防団数の減少が低下してきたこと、また、積極的な入団促進の取り組みが成果を出してきたことなどが背景として考えられます。

しかし、平成23年は東日本大震災の影響により殉職や生活基盤を失うなどの環境の変化によって東北地方の減少数が増加したことや、市町村合併に伴う消防団の再編による減少などで前年比4,819人の減少で881,638人となりました。

その後、平成24年は876,841人（前年比4,797人減少）、平成25年は871,730人（同5,111人減少）と減少数が再び増加していましたが、今回、平成26年は、867,802人（同3,928人減少）と減少数が低下しました。【表2、表3】

団員数は全国的に減少傾向にある中で、今回の調査では14県（前年6県）が増加しており、その主な要因としては、団員確保のための粘り強い努力や女性消防団員及び機能別消防団員の採用などがあげられます。

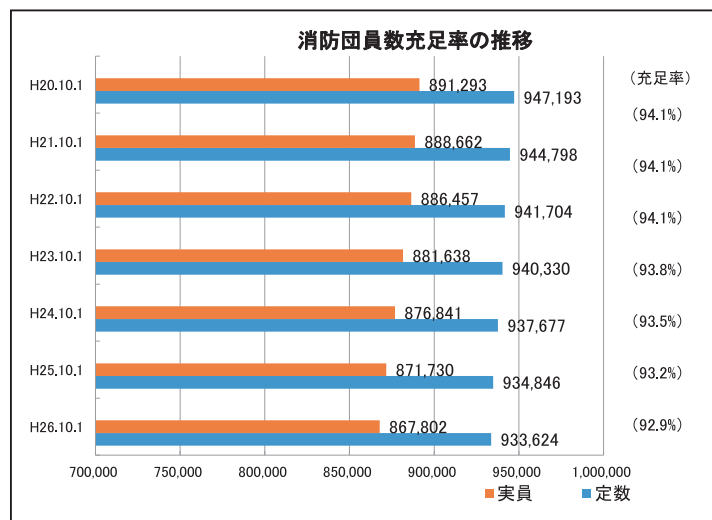
定員に対する充足率は、平成26年10月1日現在92.9%であり、前回、平成25年の93.2%と比較し0.3ポイント低下しました。【表4】

### 3 女性消防団員

平成26年は22,296人であり依然として増加傾向にあります。増加数については平成21年（前年比1,290人増）をピークに低下傾向にありましたが、平成26年は前年比1,051人の増加となっており、平成20年、21年に次ぐ高い増加数となりました。

また、女性消防団員を採用している消防団は、1,384団（全消防団の62.3%）で、昨年より49団増えており、これが団員数の増加の要因であると思われる。

女性消防団員は、地域の高齢者世帯への防火訪問や応急手当の講習、防火啓発活動などきめ細やかな活動で活躍しています。



【表4】 消防団員数充足率の推移（日本消防協会調べ）

# 第28回中国消防視察について

(公財)日本消防協会

日本消防協会では、毎年度中国の消防事情調査を実施しております。本年度は、秋本会長を総括団長とした総勢10名の調査団により、平成26年11月18日（火）から25日（火）までの8日間、北京、貴州省（凱里市）、海南省（三亚市）の3カ所で現地調査を行いました。

## 【北京 故宮専属消防隊】

北京では故宮専属消防隊を視察しました。この消防隊は、世界最大の古代王宮殿群（南北961m、東西753m、面積約725,000㎡）を含む地理的・歴史的に重要な地区を管轄しています。

77人の隊員が24時間勤務し、消防車両はポンプ車、はしご車、救助車、指揮車を配備しているほか、故宮消防隊専用の泡消火装置（水250ℓ + 泡原液30ℓ）を備えた電動消防車や、本年度開催されたAPECに伴い消防バイクを新たに配備するなどして消防力の強化を図っていました。



電動消防車



電動消防車（泡消火装置）



消防バイク（左右ボックスに消火器を収納）



消防バイク（中央ボックスに簡易救助器具等を収納）

## 【貴州省 凱里市消防中隊】

中国南西部に位置する貴州省。この省の東南部に位置する少数民族自治州の黔東南ミャオ族トン族自治州にある凱里市の消防隊を視察しました。

凱里市の人口は約45万人、そのうち8割を少数民族の苗（ミャオ）族と侗（トン）族が占めています。そのような凱里市を警備する消防中隊には、45人の隊員が24時間体制で勤務しています。

ポンプ車、化学車、はしご車、救助車、大型ブロワー車、指揮車を配備し、年間約200件出動しています。その内訳は、ほとんどが救助事象（交通事故、エレベーター閉じ込め事故等）で、火災事故は1/3程度です。出動体制は、通常、消防車1台を7～8名の隊員で編成し、3台が同時出動します。

ちなみに、この消防中隊がおかれている救助隊は、2008年に発生した四川大地震の際、応援隊として出動し救助活動を行ったそうです。



消防庁舎



記念撮影



敷地内の壁に書かれた防火PR画



視察風景



大型ブロワー車



## 【海南省 三亜市消防中隊】

中国最南部の省。この省の南端に位置する海南省第2の都市三亜市の消防中隊を視察しました。

三亜市は、その緯度がハワイとほぼ同じであり、熱帯の気候と美しい海浜で知られ、特に亜龍湾（ヤーロン・ベイ）は外資系の高級ホテルが立ち並ぶ、中国有数のビーチリゾートがある都市です。そのような三亜市を警備する消防中隊は私たちが宿泊したホテルの目の前にあり、2004年11月に設置され、現在は42人の隊員が24時間体制で勤務しています。

ポンプ車、はしご車、救助車、指揮車を配備し、年間約80件程度出動していますが、その大半は救助事象（交通事故）であり、火災出動はほとんどありません。

また、管内のホテルでは重要な会議の開催も多くあり、その際には警備にもあたっています。

今回の視察では、各種救助器具を展示していただきましたが、地中音響探知機、電磁波人命探査装置や加圧排煙機といった先進的資器材を装備していました。またロープ結策の要領は、日本の救助技術から教わったものであるとのことでした。

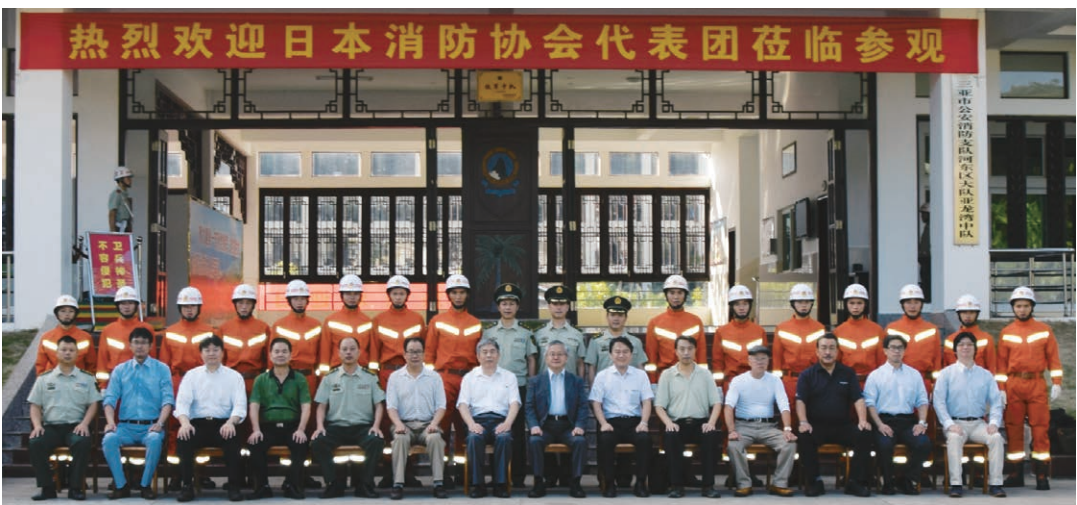
また、暑い気候であるため熱中症対策について伺ったところ、訓練は夜間に行ったりすること、出動には水分補給体制をとることや医療体制のバックアップもあるとのことでした。



消防庁舎



訓練風景（ロープ結策）



記念撮影

# 第61回文化財防火デー

消防庁 予防課

昭和24年1月26日、法隆寺金堂（奈良県生駒郡）から出火した火災によって、1300年の歴史を持ち、世界的な至宝と言われた金堂の壁十二面に描かれた仏画の大半が焼損しました。

その後も文化財の焼失等が相次いだため、このような被害から文化財を守るとともに、文化財愛護に関する意識の高揚を図るため、昭和30年から、消防庁と文化庁の共唱により、法隆寺金堂が焼損した1月26日を「文化財防火デー」と定めて、その日を中心に、各地で文化財関係者、消防関係者、教育関係者及び地域住民の連携・協力により、消防訓練が実施されます。



第60回文化財防火デーにおける消防訓練の様子  
於：出雲大社（島根県）【写真提供 文化庁】



第60回文化財防火デーにおける消防訓練の様子  
於：増上寺（東京都）【写真提供 文化庁】

## ○文化財防火デー実施方針

- 1 国民一般の文化財保護に対する関心を高めるために、教育委員会及び消防機関は、この日を中心に積極的に防火訓練その他の防災訓練等の行事を実施するとともに、広報活動を行い、「文化財防火デー」の趣旨の徹底を図るものとする。
- 2 文化財所有者、管理者その他の関係者は、平素の文化財の防災体制の整備や防災対策の強化に加え、「文化財防火デー」においては、文化財は国民共有の貴重な財産であることを再認識し、必要な措置を講ずるよう努力するものとする。
- 3 文化財を災害から守るためには、関係機関等及び文化財所有者等だけでなく、文化財周辺の地域住民との連携・協力が必要であることから、「文化財防火デー」においては、そのような地域の連携体制の構築・強化のため、地域住民に対する防火・防災意識の高揚に努めるものとする。

我が国の文化財建造物はその多くが木造であり、美術工芸品についても木や紙又は布等の燃えやすい材質により造られているものが多く、火災により焼損する危険をはらんでいます。

このような文化財を災害から守るためには、文化財関係者や関係機関だけではなく、文化財周辺の地域住民との連携・協力が必要となります。

「文化財防火デー」を機に、文化財愛護の意識や、防火・防災意識の高揚に努めてください。

## ○第61回文化財防火デー

主な消防訓練場所（予定）

場所▶丸岡城（福井県坂井市）

日時▶平成27年1月26日（月）13時30分～

その他の地域における訓練等の予定につきましては、最寄りの消防署へお問い合わせください。

### 問合わせ先

消防庁予防課予防係 増沢、大槻

TEL：03-5253-7523

# 消防団への入団促進

消防庁 地域防災室

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つであり、消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安心・安全の確保のために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

さて、平成23年3月に発生した東日本大震災をはじめ、昨今の記録的集中豪雨、台風災害などの大規模災害において、消防団員は住民の避難誘導等を献身的に行ってきました。このように、消防団は、日頃の消火活動のみではなく、大規模災害時には昼夜を分かたず果敢に活動しており、地域防災力の中核として不可欠な存在となっています。

しかしながら、過疎化、少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化等に伴い、消防団員数は年々減少し続けており、平成26年4月1日現在、約86万4千人で10年前の平成16年4月1日の約91万9千人に比べ、約5万5千人（約6.0%）減少し、地域における防災力の低下が懸念されています。

このような中、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図り、住民の安全の確保に資することを目的として、議員立法により「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が平成25年12月に成立しました。この法律では、消防団への加入促進などが規定され、消防庁では消防団の充実強化に向け、より一層、各種施策に取り組んでいます。

また、全国の消防防災機関では、消防団員の確保に向けた様々な取組を展開しているところですが、例年3月末から4月にかけて消防団員の退団が特に多くなる時期を迎えることから、今年度も1月から3月までの間、全国的な「消防団員入団促進キャンペーン」を実施します。

本キャンペーン期間中は、消防団員の確保に向けて、特に、事業所の協力促進並びに女性及び大学生等の入団促進に重点的に取り組むこととしています。

## ○消防団活動への事業所の協力の促進

現在の消防団員の約7割が、会社員などの被雇用者であり、消防団活動には、事業所の協力が不可欠となっています。平成18年度から消防団協力事業所表示制度がスタートしており、勤務中の出勤への便宜や従業員の入団促進を図るなど事業所ぐるみで積極的な活動を行っていただいている事業所も多く、既に平成26年4月1日現在で「消防団協力事業所」として10,425事業所が認定されています。

## ○女性の入団促進

女性を消防団員として採用しようとする動きが全国的に広まっており、平成26年4月1日現在、全国で約2万2千人の女性消防団員が、火災予防広報、一般家庭や高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及啓発活動等、多岐にわたって活動しています。

## ○大学生等の入団促進

消防団員の高齢化が進む中、若年層の消防団員確保が課題となっています。大学生等の若い力を、消防団活動で発揮していただくことは大変有意義で、地域の防災力向上にも効果的です。平成26年4月1日現在で約2千7百人の大学生等（専門学校生を含む。）が消防団で活躍しています。

## ○消防団員入団促進等の取組事例



成人式でのPR活動の様子  
(野州市消防団)



スポーツ施設での入団促進活動の様子  
(静岡市消防団)

## 問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部地域防災室 山下  
TEL：03-5253-7561

# 消防団員である専修大生が応急救護訓練を実施

東京消防庁 神田消防署

専修大学の学生サークル「専修神田ボランティア（SKV）」が主催する応急救護訓練が11月22日に千代田区神田神保町の同大学であり、学生や地元住民ら約100人が参加しました。

SKV代表の山口隆介さんら3人は地域貢献を目的として、神田消防団第一分団に所属し、防火防災活動も行っています。

今回、SKVがサークルメンバーや同大学生ら約100名を対象に、応急救護の知識と技術を身につけてもらおうと、訓練を企画、自らが指導者として訓練指導する「学生が主体となった訓練」が行われました。

参加者は山口さんらの指導を受けながら心臓マッサージや包帯法による応急救護訓練などに取り組みました。

山口さんは「事故や災害には、いつ遭遇するかわかりません。応急救護の知識と技術は必ず役に立つと思うので、多くの人に伝えたいからこの活動をしています。」と話しました。

神田消防署では、こうした若い防火防災行動力に期待しています。



胸骨圧迫訓練を指導



包帯法を指導



AEDを使用した訓練の様子



包帯法を実践する学生

うちの

# 名物団員



岩手県 普代村消防団 第1分団 班長

上神田敬二

普代村で上神田精肉店を経営する彼は、東京の有名料亭での料理人経験を生かし、村興しの思いから普代産昆布を使った「焼肉用生たれ」を開発、絶品の美味さで県内外に飛ぶように売られています。また、教育委員として教育行政に携わる一方、



消防団、商工会、祭り組とマルチに活躍する頼れるリーダーです。

中津市消防団 第2方面団 団員

木村 通

大河ドラマ「軍師官衛兵」の舞台となった大分県中津市。

そこに地域を愛し、地域と共に過ごしてきた人物が木村通団員です。

平成24年大分県消防大会での意見発表において「皆さんはどーして消防団に入団したの

ですか？」の第一声で、自分の家が火事になって、後片付けなど消防団員の行動に感銘して入団した話。また、九州北部豪雨大水害の翌日に、自分が指導している中学生の陸上クラブの子供たちと一緒にボランティア活動をした体験談を発表し、見事最優秀賞に輝きました。

平成25年度の中津市の小型ポンプ操法大会においても「出場するからには、絶対優勝する。」とみんなに意気込みを伝え、自ら率先して分団員を引っ張り見事に優勝に導きました。地域の為になることならと次世代を担う子どもたちに、常に奉仕の必要性を伝える姿！

そんな彼のパワーに、いつしかまわりが引き込まれていきます。

岩手県

大分県





東彼杵町消防団 第3分団 部長

山口 三男

長崎県産茶の約6割を生産し、「そのぎ茶」の産地である東彼杵町から、山口三男部長を紹介いたします。

山口部長は、長崎県消防ポンプ操法大会に出場した経験もあり、経験を活かした後輩団員への指導により、頼れる兄貴分として信頼される存在となっています。

また、消防団員として地域の安全・安心を守る傍ら、地元の少年剣道クラブの指導者として活躍されています。

今後も後輩団員の指導や青少年の健全育成に貢献されることを期待しています。



勝山市消防団 第1分団 団員

久保 剛

久保団員は、父である前副団長より志を受け継ぎ入団した新人です。

普段は父と共に指し物店を営み、映画「魔女の宅急便 実写版」に使用された、風が吹く（福）と福が回るかざぐるま「福来るクルクル風車」を製作し、福を呼び込むお手伝いをしています。

災害のない明るく元気なまちづくりのため、団員として住民の皆様に福が来ますよう日々励んでおります。



岩出市消防団 第1分団第6部 班長

柏木 恒紀

岩出市からは、和歌山県小型ポンプ操法ナンバーワン指揮者の柏木班長を紹介いたします。

柏木班長は今年度開催された第25回和歌山県

消防ポンプ操法大会の小型ポンプ操法の部で指揮者として、見事に優勝されました。消防・防災に対する思いも非常に熱く、日頃から熱心に消防団活動に取り組まれています。



# 消防団の広場

福井県

## 「消防操法大会から生まれるもの」



勝山市消防団  
第4分団 団員

中村 啓一



勝山市は福井県の東北部に位置し、市の中心は福井市の東方約28kmの地点にあり、東南は大野市に、西南は坂井市、永平寺町、北は石川県に隣接している。また、市の周辺は1,000m級の山々に囲まれ、中心部は県下最大河川である九頭竜川の中流域にあり、四季の彩りが豊かな美しい自然が残るまちで、国史跡白山平泉寺、全国から70万人余りが訪れる福井県立恐竜博物館があるところです。

人口は2万5千人余り、消防団は消防団員定数299人（内女性24人）、12ヶ分団で構成されています。

毎年開催されています福井県消防操法大会には各分団持ち回りで出場しています。私が所属している第4分団は、

私が入団してから19年間に2度操法大会に出場し（H13・H25）、2度とも優勝するという快挙を成し遂げました。その2度の優勝に



私が選手として出場し経験させて頂いたことは大変誇りに思う事であります。

大会までの2ヶ月間、毎日早朝より練習のサポートを頂いた他の団員、技術はもとより、身体のケア、メンタル面での指導を頂いた職員の方々、温かく大きな目で見守ってくれた団OBの方々、そして何より家族の支えがあったからこそ、優勝だったと思います。

一回目の出場の際は、自分のことで精一杯で周りを見ることができませんでした。年齢を重ねてからの2度目の操法大会は、冷静に周りを見る事ができる目ができ、若い選手へのちょっとしたアドバイスや、チーム内でのまとまりや絆など、裏方の役目も少しはできるようになったと思います。また、操法に携わったすべての人へ感謝の気持ちを表す良い機会となりました。今後こういった気持ちを若手団員の指導、また地域の安全、活力に変えていかなければならないと思います。



平成26年度 全国統一防火標語

「もういいかい 火を消すまでは まあだだよ」

## 2月の日本消防協会関係行事

2月4日(水)～2月6日(金) 第14回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)  
2月17日(火)午後 消防育英会理事会  
2月18日(水)～2月20日(金) 第14回消防団幹部候補中央特別研修(女性の部)  
2月24日(火)午後 第2回福祉共済事業等運営委員会

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。日頃より日本消防のご購読、誠にありがとうございます。  
昨年は、2月の大雪から始まり、豪雨、台風、噴火、地震と次から次へと大規模な災害が相次いだ年でした。消防団の皆様は、数々の事故や災害等への対応と、日々の訓練に多忙を極めたことと思います。

特に昨年は、第24回全国消防操法大会が開催されたことから、全国大会に出場した消防団員の皆様は、各都道府県の消防操法大会を始め、数カ月にもわたる訓練を積み重ね、大変な苦勞をなされたことと存じます。平成27年1月号では、その全国消防操法大会にて、優勝の栄冠を勝ち取った消防隊と見事に優秀選手に選ばれた消防団員の方々をご紹介します。

ここでは、仕事前の早朝や仕事後の夜間、更には休日を返上して訓練を行ってきた選手の熱意や、応援や手伝い等に携わってくださった団員や家族等の多くの方々との結束が見てとれ、消防団が確実に地域防災力の中心として信頼を得ているものと感じました。

日本消防では、今年も消防団の地域愛への熱意が地域の方々に伝わるような内容を掲載して行きたいと思っておりますので、ご寄稿をよろしく願い申し上げます。(T.S)

## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,448円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十八巻第一号  
平成二十七年一月五日印刷  
平成二十七年一月十日発行

編集人 生嶋文昭  
発行所 日本消防協会

印刷所 東京都港区虎ノ門二丁目九十六番地  
電話 〇三(3503)一四八一(代)

印刷所 東京都文京区湯島三丁目二十一番地  
日本印刷株式会社  
電話(383)六九七一(代)

# 消防団員・消防職員の皆様の火災共済

消防団員  
消防職員  
ならどなたでも  
加入できます

まさかの時お役に立ちます。

風水雪害等共済金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)  
火災共済金375万円のお支払い

## 1500倍補償

### B型火災共済

**消防団  
消防本部** 毎に皆で加入

キャンペーン期間中B型火災共済に加入しますと、テントを消防団等に配布します。

(加入者100人以上または、掛金10万円以上が対象)

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害  
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。



(三方の横幕も付属します。)

お支払  
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-3503-1439  
詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

## 消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）+配当率が適用されます。

老後生活に向けた  
計画的な財産形成  
が可能です。

月払の場合、  
毎月一万円（ゆうちょ  
銀行は五千円）から  
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、  
年金（5種類）又は  
一時金からご選択  
いただけます。

途中で脱退しても、  
積立金（脱退一時金）  
が受け取れます。

税制適格コースは  
個人年金保険料控除  
自由選択コースは  
一般の生命保険料控除  
の対象となります。

消防団員、消防職員  
の退団・退職後も  
継続できます。

（お問い合わせ先）公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

### 0120-658-494

平日 9:00~17:00